

＜篠木小学校としての学校評価アンケート結果の考察＞

設問１「子どもたちは毎日楽しく学校生活を送っていると思いますか？」

保護者回答では「非常にそう思う」「そう思う」を合わせると 91.4%（R5 年度 92.1%）で、児童回答では「とても楽しい」「楽しい」を合わせると 90.8%（同 91.6%）であった。保護者・児童ともに僅かながら数値は低下したものの、学校生活における両者の満足度は高い水準を維持していると言える。

一方で不登校傾向にある児童も少なくなく、３学期からは教室以外のスペースを提供する等の工夫を施している。今後はスクールカウンセラーや心の教室相談員、関係諸機関とも連携し、教員以外の視点から子どもたちにアプローチしていく体制をより一層充実させていくことも重要であるとする。担任に任せっきりになることのないよう教職員間で情報共有を行い、学校全体で子どもたちを支えていく教育現場の構築を目指したい。

設問２「子どもにとってわかりやすく楽しい授業がなされていると思いますか？」

保護者回答では「非常にそう思う」「そう思う」を合わせると 89.3%（R5 年度 89.7%）、児童へのアンケート「授業はわかりやすいですか」に対する回答は、91.0%（同 89.7%）の児童が「とてもわかりやすい」「わかりやすい」と答えている。こちらも高水準を維持していると言えるものの、「あまりよくわからない」「わからない」と答えた児童が 9.0%おり、全ての児童の学力を伸ばすべく引き続き授業改善に努めたい。

現在は、タブレット端末を効果的に利用した授業について教職員間で研修や情報共有を重ね、その充実を図っている。また、今年度も昨年度に引き続き全担任が互いの授業を公開し合い、指導方法の研究を行った。今後もわかりやすく楽しい授業作りへの努力を一層重ねていきたい。

設問３「教師は子どもたちを理解して指導していると思いますか？」

保護者回答では「非常にそう思う」「そう思う」は合わせて 87.6%（R5 年度 86.6%）である一方で、児童へのアンケート「先生はあなたのことを分かってくれていますか」に対する回答は、「よく分かってくれている」「分かってくれている」を合わせて 95.0%（同 93.5%）と、児童からの信頼は厚いと言える。

今年度も褒めるべき点は大いに褒め、改めるべき点はきちんと指導するといった姿勢を大切にしてきた。一方で日々起こるトラブルに対しては、学級・学年でのタイムリーな指導、相互理解に繋げる話し合いを地道に続けている。教育相談期間を長く設けて児童一人一人と話す時間

を十分に作り、児童理解に努めてきたことも大きいだろう。今後も児童一人一人の様子に目を配り、児童の声によく耳を傾け、その子の内面をしっかりと捉えた指導を心がけていきたい。

設問4 「学校は子どもたちの健康や安全に十分配慮していると思いますか？」

保護者の「非常にそう思う」「そう思う」は合わせて93.0%（R5年度90.4%）であった。教職員が児童の健康安全を第一に考え教育活動を行っていることを、保護者の方々にもある程度ご理解いただけているのではないかとと思われる。

本校では現職教育の一環としてAED研修や食物アレルギー対応委員会、嘔吐物処理講習、不審者対応訓練を行い、いざという時に適切な対応ができるよう、全教職員で研修・研鑽に努めている。また、夏場は熱中症予防対策として熱中症指数のチェックやこまめな休憩・水分補給など、常に教職員間で声を掛け合って児童の健康面に配慮し続けてきた。大規模リニューアル工事も本格的に始まっており、教育総務課には児童の安全面を第一に工事を進めるよう強く進言している。今後も児童の健康面や安全面を十分考慮した上での環境整備を心がけていきたい。

設問5 「学校は、開かれた学校づくりのため、家庭や地域に適切に対応していると思いますか？」

保護者の「非常にそう思う」「そう思う」の合計は89.5%（R5年度91.0%）であり、昨年度比1.5ポイント下落した。これはR5年度がコロナ禍の状態を脱した直後であり、授業参観等の学校行事を久しぶりに再開していったことの反動と考えられる（R4年度の85.2%からR5年度は飛躍的に上昇している）。教職員の働き方改革の観点からも引き続き学校教育活動の精選は行っていくものの、来年度以降も可能な限り開かれた学校づくりに取り組んでいきたい。

設問6 「今年度の教育活動について」

数年間に亘る社会からの「マスク着用」「間近での会話は極力控えること」といった要請が、教育現場に残した爪痕は大きい。近年の児童間トラブルの主因がコミュニケーション能力の低下であることも鑑み、始業式や終業式、朝会の度に校長自ら「元気よく挨拶する、人の話をしっかりと聞く、周りをよく見て行動する」という3つの目標を全校児童に訴え続け、心身ともに健全な子どもの育成を目指して教育活動を推進してきた。今後もチーム篠木で子どもたちの学校生活を全力で支えていきたい。

＜学校評議員のご意見＞

教育活動のアンケート結果および本校の考察を元に、学校評議員の皆様からお寄せいただいたご意見です。

- ・アンケートを取れば、必ずある程度は否定的な意見が出てくるもの。批判はあると思うが、そこばかりに目を向けてはいけない。一生懸命「6年生を送る会」に取り組んでいた本日の子どもたちや先生方の姿を見て、強く思いました。
- ・ジャンプフェスタについて「復活したことはとてもうれしい」「全校生徒で思い出をつくることができる、とてもよい活動」といった肯定的なご意見が多かった一方で、「運動が苦手な子も楽しく参加出来る行事でしょうか」というご意見もあった。ただ、このような機会により、自分にとって良いことも悪いことも学べるはず。「みんな一緒」ということではなく、学校教育現場においてもっと勝負がはっきりする場面があってもよいのではないかと思う。
- ・保護者からのコメントを拝見して、「あなたのためのオーダーメイドの学校ではないよ」と言いたい。
- ・アンケートの回答の選択肢は4つではなく、もう少し細分化してはどうか。「どちらでもない」という項目が無いのは良いと思う。